

小中一貫教育フォーラム 研究発表グループ

大泉第二中学校・大泉南小学校・大泉第二小学校

中学校区の特徴

- ・地域には畑等の自然が多く，素直で伸び伸びと育っている児童生徒が多い。
- ・保護者や地域の方が積極的に学校に関わり，地域全体で児童生徒を支えようという環境がある。

目指す 15 歳の姿

- ・義務教育を終える 15 歳では「社会で通用する基礎的な力を身につけ，社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。

1 研究主題

9 年間を見通して行う学習指導の充実

—各教科等における系統的・継続的な指導の充実—

2 主題設定の理由

本研究グループでは平成 24 年から 26 年度までの準備段階から，立地条件の不利な状況(大二中と大二小が徒歩 20 分強)などをカバーするためだけではなく，学習指導面に重点をおくこととし，小・中学校の滑らかな接続，9 年間を見通した教育活動を推進するために，国語科，社会科，算数・数学科，理科，音楽科，図工・美術・技術科，体育・保健体育科，家庭科，外国語活動・英語科の 9 分科会に養護・栄養士分科会を加えた 10 の各教科等分科会を設定し，各教科分科会でしっかりと連携をとりながら指導体系を構築させることを目的として活動していくこととした。

そして平成 27 年度から，第 1 回目の校區別協議会辺りに中学校で，第 2 回目の校區別協議会辺りに小学校(隔年で分ける)で年に 2 回各分科会一斉の研究授業を実施し，そのための学習指導案検討も各分科会で行うこととした。

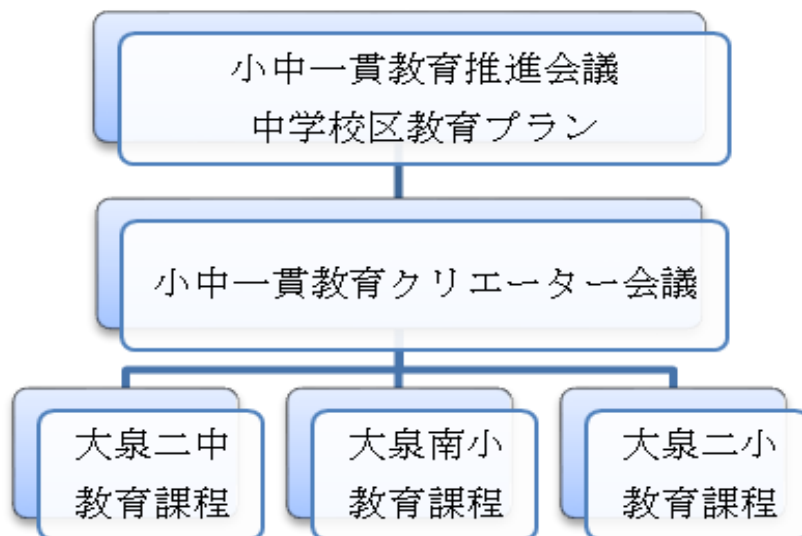
令和元年度からは，栄養士の方が会計年度職員の場合もあることが確認されたため，養護・栄養士分科会は養護部会として新たにスタートすることとなった。

3 グループにおける小中一貫教育推進上の課題

・大二中と大二小の距離が徒歩 20 分強と離れており，児童・生徒は移動するだけでかなりの時間を浪費してしまうため，授業や放課後の時間を利用しての連携が難しく，現在毎年行われている“いじめ一掃プロジェクト「練馬区いじめ防止〇〇」”の作品を 3 校で交流する，いわゆる作品交流のみとなっている。そのために生徒会役員による中学校説明会と，生徒会役員が中心となって進めている“エコキャップ運動(ペットボトルキャップ回収)”以外での児童・生徒の直接交流活動は行っていない。

・10 協議分科会を中心に取り組みを進めていったことで，各教科の研究を深めることはとても成果を上げていると思うが，今後各教科の研究内容について中学校教員と異なる複数の教科等の指導を行う小学校教員が，その内容をどのように共有していくかについて，工夫をしていくことが必要かと思われる。

4 研究組織



5 研究計画

5月	小中一貫教育クリエーター会議
5月	第1回小中一貫教育推進会議
6月	第1回校区別協議会 ① 10協議分科会の課題改善カリキュラム等検討 ② 生活指導7協議分科会 第2回小中一貫教育推進会議
6月	小中一貫教育実践研究授業 大二中にて10協議分科会すべての研究授業 第3回小中一貫教育推進会議
8月	小中一貫教育研修会 11月に小学校(2校を隔年)で行う10協議分科会ごとの 小中一貫教育実践研究授業の学習指導案検討 第4回小中一貫教育推進会議
10月	大二中生徒会役員による中学校説明会
10月	大二中文化発表会舞台の部の見学
11月	第2回校区別協議会 小学校(2校を隔年)で行う小中一貫教育実践研究授業 第5回小中一貫教育推進会議
11月	“いじめ一掃プロジェクト「練馬区いじめ防止〇〇」”の3校作品交流
2月	小中一貫教育フォーラム
2月	両小学校にて大二中教員による乗り入れ授業
2月	小中一貫教育クリエーター会議
年間不定期で	生徒会役員推進の“エコキャップ運動(ペットボトルキャップ回収)”

大泉第二中学校・大泉南小学校・大泉第二小学校 グループの特色ある取組

1 児童・生徒の取組

(1) 合同エコキャップ運動

大泉第二中学校で行っている“エコキャップ運動（ペットボトルキャップ回収）”を、中学校生徒会役員が小学校に協力を求める形で、大泉第二中学校・大泉第二小学校・大泉南小学校の3校で協力して行い、交流をもつことができた。

大南小にてキャップ回収



(2) 3校での優秀作品交流

大泉第二中学校と大泉第二小学校の距離が徒歩20分強と離れているため直接交流を実施せず、毎年11月に行われている“いじめ一掃プロジェクト「練馬区いじめ防止〇〇」”の各学年優秀作品をそれぞれの校内に3校分掲示し、3校での作品交流を行った。

ポスター作品交流



(3) 中学校説明会

例年2学期後半に大泉第二小学校と大泉南小学校の6年生と一緒に大泉第二中学校に集まり、大泉第二中学校生徒会役員が中心となって資料や映像を用いての中学校説明会を開催することにより、小学生の中学校生活に対する不安が軽減され、中学校生活への興味や見通しをもつことにつながっている。また、中学校生徒会役員とこの説明会に携わっている役員以外の生徒からは、これから入学してくる小学校6年生を温かく迎え入れようという雰囲気がうかがえるようになってきた。そしてこの説明会の前に実施している中学校授業見学会では、より専門的な授業を見学することにより、興味関心を更に高めることにもつながっている。

中学校授業見学・中学校説明会



2 教職員の連携等の取組

(1) 小中合同研修会における各教科等10協議分科会

10協議分科会に分かれての授業研究を柱とする取組が今年度で6年目を迎えるが、COVID-19の影響で今年度はその分科会がまったくできなかった。来年度は中学校も新学習指導要領が施行となり、当然課題改善カリキュラム改変に取り組んでいかなければならない。

大二中検証授業と全体会



昨年度までの取組では、小・中両教員が教科の専門的な研究も進めていくこと、各教科の特色をふまえたそれぞれの指導のあり方や系統性などについてさらに深めていくこと、各教科での授業研究に取り組むことができた。またその研究を通して、小学校教員は専門性が高い中学校教員の知識や指導技術を学ぶことができ、中学校教員は小学校各学年の学習段階や発達段階に合わせた指導法などを、具体的に学ぶことができた。



(2) 小中合同研修会における生活指導 7 協議分科会

平成 30 年度から始めた『児童・生徒の実態把握及び学習、生活指導上の課題と指導法』を模索していくための“生活指導 7 協議分科会”（中学校一年生情報・言葉遣い・規律規則の徹底・いじめ不登校・あいさつ・特別支援・SNS）は、小・中学校の教員同士の意識を向上させるためにも大変役に立ち、今後も続けていくこととなった。

(3) 中学校教員による両小学校での乗り入れ授業

大泉第二中学校学年末考査の時期に、中学校の新規採用教員が両方の小学校に訪問し乗り入れ授業を行ったことから始まった取組で、児童そして小学校教員からの評判も良く「新規採用教員がない年でも実施して欲しい」という要望もあり、現在まで続いている。昨年度は中学校数学科教員 4 名と英語科教員 3 名が各小学校に分かれ、6 年生各クラス同時に授業を行った。今後は開催時期を 2 学期の早い時期にできないか検討中で、さらに発展させていきたいと計画している。



「令和 2 年度の重点取組」

【重点取組 1】

『小中一貫教育グループにおける「目指す 15 歳の姿」の明確化』

義務教育を終える 15 歳では「社会で通用する基礎的な力を身につけ、社会に貢献する人間となる」ことを目標とする。そのための一つの手段として、大泉第二中学校で使用している同じ形式の“キャリアパスポート”を小学校でも使用し、9 年間のキャリア教育の一貫性が継続していくことができると考えている。

【重点取組 2】

『いじめや不登校等の防止など豊かな心の育成に向けた取組の実践または研究』

取組の一つとして例年実施している「練馬区いじめ防止〇〇」の 3 校作品交流で校内掲示を行い、豊かな心の育成の涵養に取り組んでいく。

「令和 2 年度の成果と今後の方向性」

成果はこの大変な中、推進会議ができたこと。今後の方向性は現在の継続である。